

interview 母 × 教師

3年3組担任 福岡 麗子



母親として 担任として

—本日は、よろしくお願いします。

よろしくお願いします！

—男子校に女性の先生というのは、一般に多くはないと思うのですが、本校にはどういった経緯で赴任されたのですか。

正直に答えていいですよ(笑)。ちょうど教員の採用が狭き門の時代で、何校か受けたうちの一校が保善高校でした。教員になるにあたって、男子校か女子校かのこだわりは、特になかったです。

—男子校ということで、驚いたことは？

自分の息子が提出物などにだらしない面もあるのですが、男子校だとそういう生徒もいるのだなあと。それまで息子に対して腹を立てていましたが、むしろ普通なのだと気づきました。あ、素直な生徒も多いですよ！

—本校に勤めて何年目ですか。

11年くらいになります。

—最初は非常勤講師から始め、今は担任を持たれていて、今年初めての卒業生を出すわ

けですが。

いやー、早く卒業してほしい(笑)。それは冗談として、今も受験に向けて一生懸命頑張っていますので、こちらとしても最後まで、出来ることをサポートしていきたいと思っています。

—初めての担任生活はいかがでしたか。

最初は、女性だからといってなめられてはいけないという気持ちがありました。しかし担任としてやっているうちに、いわゆる男性の教員と同じやり方では却ってうまくいかないと思い、自分ならではの女性ならではのクラス経営を心掛けるようになりました。

当初の理想は、ピシッとしたクラスを作りたいだったのですが、今では活発なクラスに仕上がっています。

—保護者の方と触れ合う場面も多いと思いますが、共感する面などもありそうですね。

そうですね。ただご家庭によって、息子さんと家でよく話す親御さんもいれば、そうでないご家庭もあるようです。最近は話す家庭が

割合多いですかね。うちは息子と話さないの
ですけど…。

保護者会などにお出でいただいた際には、な
るべく学校での生徒たちの様子をお伝えする
ようにしています。

海外生活を経て大学へ

—そういえば、先生は海外の生活が長いとお
聞きしましたが、もともと日本で生まれて海
外に行かれたのですか。

日本で生まれました。その後 3 歳の時にヨル
ダンに。もともとは横浜だったのです。そのあ
と千葉県の南柏を経て海外へ…。

—えー、めちゃめちゃ近い！！ ヤングボウ
ルとか？

それは知りません(笑)

(*編集注 インタビュアーは南柏駅の 3 つ隣の、松戸
市の馬橋駅周辺に在住である . 以下、常磐線沿線の会話
がなされるが省略 .)

小学校 5 年生まではヨルダンで、6 年生の 1 年
間だけ日本の小学校に、中 1 の 2 学期から高
校まではまた海外でタイのバンコクにいまし
た。

—じゃあ、日本での学校教育を受けた経験は
少ないのですね。大学受験は海外で？

大学からは日本に戻りたいという思いが強
く、資料をそろえて、国際基督教大学の教養学

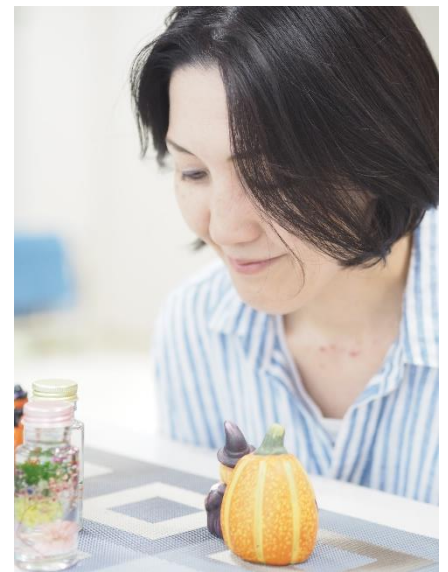
部を受験しました。

—ヨルダンでの、小学校時代はどんな生活だ
ったのでしょうか。

インターナショナルスクールで、英語で教育
を受けていましたが、一週間に一回、日本語の
補習校に通っていました。ヨルダンには 8 年
半いました。

—ご家庭では日本語だったのですか。

話すのは日本語でしたが、書くほうは漢字を
書くと、ボロが出てしまったり…。



—部活動というのはあったのでしょうか。

小学校には部活動はなく、終業後はすぐに家
に帰っていました。

—中学・高校を過ごしたタイでは部活動はど
うでしたか。

タイにはありました。演劇部に入っていました。

—それって、学外の団体ですか、それとも学内のサークルだったのですか。

学内です。タイの学校では部活も運動部は選抜制で入れませんでした。本当はバスケもやりたかったのですが...。

—演劇はやりたくてやったのですか。

演劇は演劇でやりたかったのですよ。シェイクスピアの—タイトルは失念しましたが、おばさんの役をやりました。

—英語で演じるのですか。

英語ですね。インターナショナルスクールは日常会話から英語です。

—日本人はいたのですか。

いました。その子たちとは日本語でもしゃべったりしました。

小泉先生との出会い

—ところで、いつごろから先生という職業を意識されたのでしょうか。

小6の時、担任の先生で小泉先生という先生に出会って、先生って良いなあと思いました。それもあってか、日本の担任制度というのがすごく好きで。ヨルダンの学校もタイの学校でも、担任という制度はなかったもので、その出会いが先生という職業を意識するきっかけでした。担任の先生になんでも相談したり、サポートしてもらったりということ。

—小泉先生の、印象に残っているエピソードはありますか。

転校してきて、修学旅行のときにすごく緊張したのですが、慣れるように小泉先生が気を配ってくださったりとか、また漢字が十分に書けないので補習をしてくれたりしました。また卒業する際には、小泉先生はエレクトーンを弾くのですが、みんなに作詞作曲をした曲をプレゼントしたりしてくれました。また、実は演劇のきっかけなのですが、小6の学芸会で、当時転校してきたばかりの私に主役の役をくれたのです。演し物はミュージカルでした。

—福岡先生今もカラオケ好きですもんね～



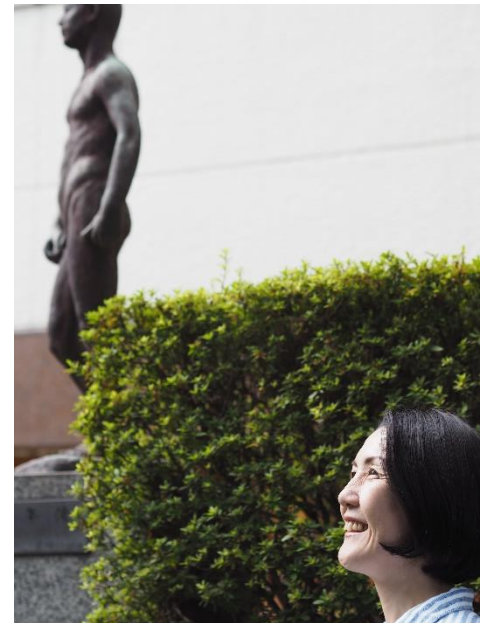
—中学生に向けてのアドバイスなどはありませんか。先生も中3の息子さんを抱えておられますが。

中学生の皆さんに向けてですが、どこの高校に行っても、高校3年間というのはすごく大きな3年間になると思います。ですから、高校受験がどういう結果になったとしても、いろいろなことに対して前向きに取り組んでもらいたいです。縁あって保善高校に来たならば、保善はすごく面倒見がよく、また男子校ならではの楽しさがある学校だとわかんと思います。実際、生徒たちはすごく楽しそうに過ごしていますし、男子校ならではの良さを満喫してほしいと思います。

—保護者の方に対してはいかがですか。

本校は教員がすごく面倒見がよいと思っています。その点では、ぜひ我々にらせてもらいたい。先生方は親身になってくれるし、その意味では自分が保護者の視点で見ても、安心してお子さんを預けられる学校だと思います。先生たち鬱陶しいくらい介入してきますんで！

—ありがとうございました。



voice 《おいでよ！HOZEN》

図書委員会



図書委員会の広がるフィールド

—本日は、つい先日まで図書委員会の委員長を務めていた竹林和史君に、本校の図書委員会のことや、ご自身と本との関わりについて聞きたいと思います。よろしくお願ひします。お願ひします。

—普段、図書委員会はどんな活動をしている

のですか？

当番制で、本の貸し出しや返却の受付をしています。他にも広報班や読み聞かせ班といった6つの班に分かれて、グループごとに活動しています。

—読み聞かせ班？ 読み聞かせ班とは、どんな活動をしているのですか？

実は今年初めての試みなのですが…。近隣の小学校に出向いて、絵本などの読み聞かせを行おうと思っているのです。

—近隣の小学校で読み聞かせ？ どういうことですか？

1学期、新宿中央図書館で読み聞かせのレクチャーを受けてきました。そして、夏休み中に近隣学校に、読み聞かせのご案内を送付しました。すると3校からも連絡が欲しいとの返信を頂いたのです。なので、順調に進めば11月下旬にはデビューできると思います。

—まさか図書委員がそこまで活動の幅を広げているとは…。脱帽です。竹林君自身はクイズ班に所属しているとのことですが、どんなことをするのですか？

私達図書委員会は、本の日には様々なイベントを行っています。そのうちの一つに、本に関するクイズをクラスに出題し、正答率の高いクラスに景品を贈るというイベントがあります。

クイズ班は、そのクイズの作成が仕事です。みなさんが本に興味を持ってもらえるようなクイズ作りを心がけています。



本を読むのが苦手だったけれど…

—そういえば、そもそも竹林君が図書委員をやることになったきっかけは何ですか？

実は小学校のころ本を読むのが苦手だったのです。でも、ある日、小学校の司書の先生に本を薦められて、そこから本を読むようになりました。実は中学校でも図書委員を務めていました。

—竹林君は小さいころから本を読んでいるイメージだったので意外です(笑) どんな本を薦められたのですか？

「がまくんとかえるくん」という絵本でした。

—あー、確かそういうシリーズの絵本がありましたね。「お手紙」という話が、小学校の教科書に載っていた記憶があります。それにし

でも、どうして本が苦手だったのですか？

小さい頃はとにかくゲームにハマっていました。つまり、ほとんど本を読むことしてこなかったのです。本に慣れ親しんでなかったから苦手でした…。

—読書の、どんなところがいい？

僕はライトノベルを読むことが多いですが、どんな本も自分の人生を豊かにしてくれるものです。母からはよく伝記を読めと言われます。それは先人の人生からは学べるものがたくさんあるからだと思います。

—そんな竹林君のオススメの本は？

『夜のピクニック』（恩田陸）です。中学2年生の時、学級文庫にあったので読みました。

—どんなところに惹かれたのですか？

この本は、僕にとって初めて読む長編小説でした。それまでは挿絵が多めの本を読んでいたのですが、その本に出合ってから、小説でも面白いものがたくさんあることに気づきました。小説とは実話っぽい話を書いているだけだと思っていたのですが、ちゃんとした物語であるのだと気づきました。



—このインタビューを読んでいる中学生の皆さんの中にも、本が苦手な方がいるかもしれませんが。そんな方に本の良さをアピールしてもらえますか？

僕も、もともと本が苦手でした。でも、何事もやらないうちから毛嫌いせず、とにかく一冊読んでみてはどうでしょうか。もしかしたらそれをきっかけで本が好きになるかもしれないし、嫌いになるかもしれない(笑)。でも、とにかくチャレンジしないと何も変わりません。

—最後に一言お願いします。

もし保善高校に入学したら、ぜひ図書委員会に参加してみてください。普通の高校生よりも本に触れあう機会が多くなります。というのも、図書館のカウンターで受付をしていれば、貸し出しや返却の本を見る機会が多くなるからです。むしろ本が嫌いな人にオススメです(笑)。あ、あと保善の図書館はかなり綺麗で、落ち着きます。読書はもちろん、自習室代わりとしても使えます。また、本校での「総合的な探求の時間」である「未来考動塾」では、たくさん図書館を利用します。それに、CDやDVDの取り揃えも多いです。

—以上、保善高校図書館を知り尽くした男、竹林和史君のインタビューでした。ありがとうございました。

ありがとうございました。

column 言葉の面白さ

山田 優



次の文は、インターネット上の天気予報の記事から抜粋したものです。

Highs will reach the low 80s with a skosh less humidity.

(<https://www.clickondetroit.com>, 2018年8月7日の記事より)

日本語に直すと、「最高気温は80度台の前半で、湿度は少し低くなるでしょう」となります。80度とは私達日本人が使っている摂氏の温度ではなくて華氏の表し方なのでこのような高い数字になっていますが、摂氏に直すと約27度となります。

さて、この文について何か気づいたことはありますか。問題はこの文の後半です。**with a skosh less humidity** に対して私は「湿度は少し低くなるでしょう」と訳をつけました。おそらく、声に出して英文を読んだ人はわかったことでしょう。そう。**skosh** という単語は日本語では「少し」なのです。

よく言われる話で、「名前(なまえ)」は英語では **name**、ドイツ語では **Name** (カタカナで発音を書けば「ナーメ」) だというのは何かの偶然なのだろうか、なんていうのがあります。オンラインの語源辞典で調べると、**name** はゲルマン語に起源を持つたいへん古

い単語だということがわかります(ちなみに、英語とドイツ語はどちらもゲルマン語から派生した言語なので、同じ形の単語があったとしても不思議ではありません)。だから、日本語の「なまえ」とドイツ語の「ナーメ」の発音が似ているのは、偶然の可能性が高そうです。

そういえば、日本語と英語で同じ発想から来ている言葉というのもたくさんあって、そのうちの 하나가「擬音語」です。擬音語とは音を模してできた言葉のことで、日本語で言えば「わんわん」「ごろごろ」などと音を繰り返して表すのが多いですね。

さて、英語には擬音語はあるでしょうか。犬の鳴き声だったら、**bowwow** とか **ruff-ruff** なんていうのがあります。動物の鳴き声は、音は違えど英語と日本語で共通していると言えるでしょう。では、たとえば「うがいをする音」なんていうのはどうでしょうか。日本語では「ガラガラ」。英語で同じ音を表す単語は **gargle** です。ただし、この **gargle** という単語は「うがいをする」という意味の動詞なのです。

Gargle the salty water in the back of the throat, then spit it out.

「塩水を使って喉の奥でうがいをし、そのあと吐き出します。」

(Medical News Today, 2019年9月4日の記事より。日本語訳は筆者)

英語の擬音語は動作として表されることが多いのは面白いことです。例えば笑い方でも、ニヤニヤするは *grin*、キャッキヤと笑うのは *cackle*、*whinny* は「馬がいなくように笑う」です。それぞれ動詞の音の中に動作の音が入っているのはとてもおもしろいですね (それにしても「馬がいなくように笑う」ってどんな笑い方だろう...)

ずいぶん話が逸れてしまいました。 *skosh* の話をするのでした。さてこの単語、私は「少し」と訳しました。 *skosh* の発音はカタカナで書くと「スコシユ」。意味も音も極めて似ていますね。調べてみましょう。さきほどのオンラインの語源辞典 (<https://www.etymonline.com>) で調べてみると、

"a little bit," Korean War armed forces slang, from Japanese sukoshi "few, little, some."

「少し」。朝鮮戦争における兵士のスラング。

日本語の「少し」に由来 (訳は筆者)

とあります。これは正真正銘、日本語から英語に入った単語でした。ラーメン *ramen* とか、寿司 *sushi* とか、あるモノが英語圏でも知られるようになって言葉が英語に入ってくるのはわかりますが、「少し」といった程度を表す言葉が日本語から英語に流入しているのはとてもおもしろいですね。しかも使われるようになったのが朝鮮戦争のころ、すなわち 1950 年前後であるというのはとても興味深いです。実は戦後すぐの時代にアメリカ人が使うようになった日本語は他にもあって、例えば *honcho* というのは日本語の「班長」から来ています。

こんなふうに、言葉には人の生き方や考え方、ものごとの捉え方、そしてその歴史までもが映し出されていることが少なくありません。私が英語の教師を続けている理由は、こういう言葉の面白さを伝えるためである、と言っても言い過ぎではありません。中学生の皆さん、保善高校でそんな言葉の面白さを一緒に学びませんか。

